

一般的に言われる

イギリス式アロマとフランス式アロマの違い

フランス		イギリス
治療・医療	目的	美容・リラクゼーション
医薬品のようなものとして認知・使用	扱い	医薬品扱いではない
皮膚塗布・経口投与・座薬・吸入など	使用方法	嗅覚刺激、マッサージオイル
条件・目的により様々(1%程度~原液)	精油濃度	低濃度のマッサージオイル (多くは0.5%~2%)
精油の内容成分を明らかにする 医療面での臨床データが豊富	研究臨床	マッサージとの併用・応用について

フランスとイギリスでは精油の使われ方が違います。

アロマセラピーの発祥の地はフランスですが、

日本にはまずイギリス式のアロマセラピーが紹介されました。(1990年頃)
そのため、当時のイギリスで主流であった美容やリラクゼーションを目的とする

アロマセラピーが、日本の主流となっています。

一方、フランス式のアロマセラピーは、治療を目的とするメディカルアロマが主流。

高濃度で使用することもあり、精油の品質や成分が重視されています。



日本ではエッセンシャルオイルは雑貨などの扱いとなっています。ただし、一部の医師などによりアロマセラピーを積極的に取り入れようとする動きもあり、これからの補完代替医療として期待されています。